

CAMPUS 八戸学院

vol.75

八戸学院大学

人間健康学科20周年「特別記念講演会」

八戸学院大学3号館1階が

「学生交流ラウンジ」に生まれ変わりました!



八戸学院親睦チャリティーゴルフコンペを開催！



謝意を述べる五十嵐潤本部長

令和7年7月25日(金)「第32回八戸学院親睦チャリティーゴルフコンペ」が八戸カントリークラブで開催され、184名が参加しました。また、八戸プラザホテルアーバンホールで行われた懇親会・表彰式にも多くの方が参加し、大いに賑わいました。

参加費を含めた収益金は「地域福祉の発展のため」として、自走式車椅子5台を社会福祉法人吉幸会に寄付。法官大会長から目録を受け取った五十嵐潤本部長は、「皆様からの温かいご支援を、八戸市の社会福祉の充実に必ず役立てたい。」と述べられました。



多くの参加者で賑わいました

CONTENTS

- 3 八戸学院親睦チャリティーゴルフコンペを開催！
- 4 八戸学院大学
人間健康学科20周年「特別記念講演会」
- 6 研究室訪問
持続可能な地域づくりの実践
- 8 八戸学院大学3号館1階が
「学生交流ラウンジ」に生まれ変わりました！
- 10 八戸学院TOPICS
- 14 ステラが行く
- 15 ステラ・フォーカス
- 16 イオンモール下田30周年記念合同学園祭
学×食 SCHOOL FESで「八戸学院」をアピール！！
- 17 第六回八戸学院大学「鳴弦館」弓道大会を開催
- 18 「今ここ」でわたしが思うこと



『複雑さと共に暮らす——デザインの挑戦』

ドナルド・ノーマン 著 伊賀 聡一郎 他 訳
新曜社 2011年(Living with Complexity, 2010)



本書は、米国の認知心理学者ドナルド・ノーマンが物やサービスなどのデザインのあり方について述べた一連の書籍の中の一つである。著者は最初に、1980年代のIT技術の進歩が著しいときにあふれていた使いにくいデザインに対し、「デザインは簡潔でわかりやすくあるべき」として「誰のためのデザイン？」(1988, 邦訳1990)を出版した。その後の著者の考えの変遷の結果、本書では、世界やデザインは簡潔にはならず複雑であることを認め、その複雑さへの対処として、デザイナーからとユーザーからの歩み寄りが必要だと主張している。デザイナーに対しては、複雑でもわかりにくさを排除するため、使い方の手がかりを提示することや、デザイン内部のわかりやすい概念モデルを提供することなどを推奨している。そして、ユーザーには、自分たちがこれまで時間をかけて習得してきた様々なスキルのように複雑さを厭わず学習することと、その方法を提唱している。本書は作る側と使う側の共同作業を通して、より良い世界の構築を目指しているが、この考えは、高校や大学での教育の提供にもあてはまると思われる。



遠藤 光男
八戸学院図書館 館長
八戸学院大学健康医療学部
人間健康学科 教授

CAMPUS 八戸学院

vol.75



表紙

八戸学院大学短期大学部の学生たちは、お揃いの手ぬぐいを襟元にかけて、今年も八戸小唄流し踊りに参加しました。(関連記事11ページ)

建学の精神

「神を敬し、人を愛する」

カトリックの精神に則る道德教育を施し、高尚なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することをもって目的とする。(寄附行為 第3条)

- 八戸学院大学
TEL 0178-25-2711
- 八戸学院大学短期大学部
TEL 0178-25-4411
- むつ下北キャンパス
TEL 0175-33-4190
- 八戸学院地域連携研究センター
八戸学院健康・スポーツ科学研究所
TEL 0178-25-2789
- 八戸学院図書館
TEL 0178-30-1695
- 八戸学院光星高等学校
TEL 0178-33-4151
- 八戸学院野辺地西高等学校
TEL 0175-64-4166
- 八戸学院幼稚園
TEL 0178-34-5765
- 八戸学院聖アンナ幼稚園
TEL 0178-45-3670
- 八戸学院第二しのめ幼稚園
TEL 0178-25-2488

<https://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>

人間健康学科20年の歩み ～開設から健康医療学部への展開～

学校法人光星学院 理事長補佐
健康医療学部人間健康学科 教授
遠藤 守人

21世紀に入って社会の重要課題として「健康」が大きく取り上げられ、これに関連した新たな専門領域が高等教育機関に求められるようになりました。こういった状況を背景に地域からの強い要請を踏まえて、平成17年度(2005年度)に人間健康学部人間健康学科は本学2番目の学部学科として開設されました。

人間健康学科は、「こころ」と「からだ」を多角的に分析して総合的に人間の健康を理解する学問体系として捉えることができます。その教育基盤として、まず主体的に専門的な知識や教養を習得してそれを活用する能力を身につける、そのための健康マイスター制度や研究演習による少人数指導を導入しました。そして、養護・保健体育等各種教員免許、健康管理士、認定心理士、トレーニング指導者、国家資格である社会福祉士などの資格・免許と連携したコース・プログラム制を取り入れたカリキュラムを順次整備してきました。また、「地域をキャンパスに」を合言葉に美保野のキャンパスを飛び出して、「知を開く～公開講座」、「地に利を活かす～種差海岸ウォーキング」、「健やかな市民生活のために～健康調査」といった地域の方々の巻き込んだ活動も展開しています。

平成28年度(2016年度)に看護学科の4年制化に伴って人間健康学科、看護学科の2学科体制となり、学部名称は健康医療学部と変更になりました。2学科連携して、健康についての専門的な知識を持って地域社会のニーズに対応できる人材を育成すること、さらに健康についての「知の拠点」としての役割を果たすことを使命として今日に至っています。



人間健康学科20周年からの 新たな「魅力的な学び」の創出

健康医療学部長・人間健康学科長
吉田 守実

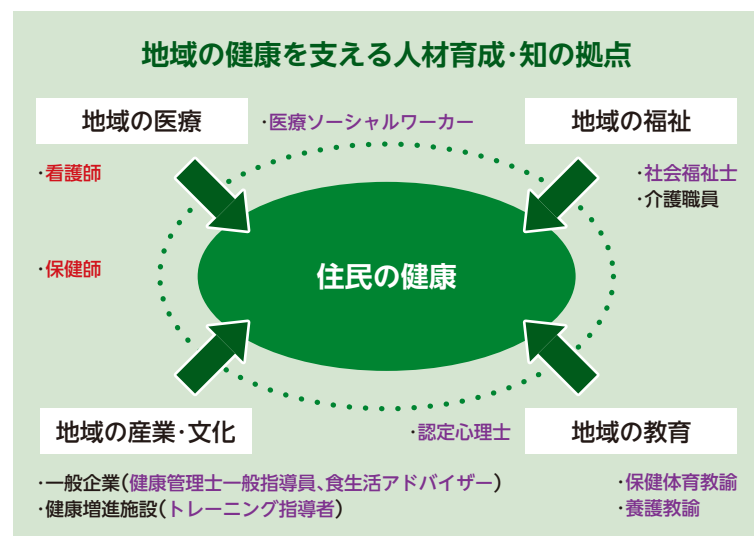


人間健康学科では健康科学を軸に、スポーツ・心理・養護・福祉・栄養などについて、基礎的な教育から実践的教育まで体系的、複合的に学びを提供し、スポーツをはじめ、心と体の健康や福祉への関心を将来に生きる資格に繋げてきました。令和7年度(2025年度)は、これまではなかった新しい講義も開講し、健康管理士一般指導員を目指す「健康管理士コース」、科学的根拠に基づく運動プログラムを学ぶ「健康スポーツコース」、教育職(保健体育、養護、保健、看護)を目指す「健康教育コース」、認定心理士を目指す「健康心理コース」、社会福祉士を目指す「健康福祉コース」の5つのコースを設けています。さらに令和8年度(2026年度)には、健康医療学部人間健康学科から「人間健康科学部人間健康科学科」と名称変更も構想中で、更なる「魅力的な学び」の創出を図って参ります。

八戸学院大学 人間健康学科20周年「特別記念講演会」

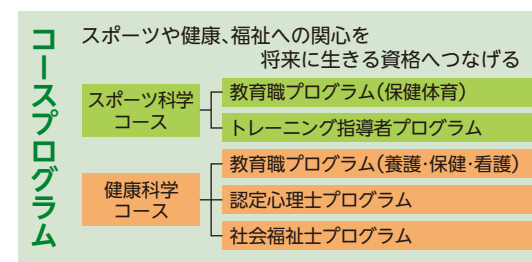


八戸学院大学健康医療学部人間健康学科は令和6年に設置20周年を迎え、これを記念して特別講演会が7月19日(土)に開催された。講師にはプロ野球・オリックスバファローズやアメリカのプロ野球でトレーナー・コーチとして20年以上活躍してきた中垣征一郎さんを迎えて「スポーツを通じた学びとキャリア形成-大学でスポーツを学ぶ意味-」というテーマで講演していただいた。中垣さんは講演の中で、自分自身のキャリアを振り返りながら、トップアスリートを支える仕事には大学で学んだスポーツ科学に関する基礎的な知識や幅広い教養が役立ってきたと述べられた。また“Think outside the box”というフレーズを引用しながら、過去の常識にとらわれない柔軟な発想の重要性を強調されていた。当日参加した高校生、大学生は熱心に中垣さんの話に聞き入り、講演後には多くの質問が寄せられた。



2016年 [平成28年/4月]
健康医療学部人間健康学科
看護学科と2学科体制

2013年 [平成25年/4月]
八戸大学→八戸学院大学へ
名称変更



2009年 社会福祉士養成校認定

2008年 健康マイスター制度導入 養成校認定

2008年 JATI 日本トレーニング指導者協会

2006年 保健体育教諭免許取得可
認定心理士資格取得可

2006年 保健・看護・養護教諭免許取得可
健康管理士一般指導員養成指定校

2005年 [平成17年/4月]
人間健康学部人間健康学科開設

2004年 [平成16年/11月]
人間健康学部人間健康学科設置許可

1981年 [昭和56年/4月]
八戸大学開学

人間健康学科の沿革

研究室 訪問



八戸学院大学地域経営学部
地域経営学科
特任准教授 井上 丹

2008年4月	株式会社リクルート 入社(2018年3月退社)
2018年4月	八戸学院地域連携 研究センター 勤務
2019年4月	八戸学院大学 地域経営学部 勤務
専門分野	まちづくり、観光、 キャリア、防災教育
担当科目	インターンシップ、 キャリアデザイン、 地域活性化システム論、 人的資源管理、 防災と危機管理、 観光学入門、研究演習

持続可能な地域づくりの実践

□地域づくり活動と人財育成

地域経営学部がスタートしてから私は本学で勤務しており、地域経営とはどうあるべきかを実践しながら研究しています。地域特性によってあり方やつくり方は変わっていきますから、「これが正解である」というものではなく、地域それぞれの現場で活動しながら進めていくものだと考えています。

そこで私は出身地である青森市浅虫において、持続可能な観光地域づくりを目指して、地域内外の協力者と連携協働しながら実践するという活動を続けています。観光地であれば来訪者が増えれば活性化につながると思われますが、観光マーケット変化への対応や、労働人口減少による観光産業の人手不足など多くの課題があり、観光事業関係者だけでなく地域住民や地域事業者が連携し地域一体となって動かなければなりません。そして浅虫のように少子高齢化が著しい地域では、外部からの協力も積極的を受け入れて、中長期的に地域に関わる「関係人口」をつくっていく必要があります。

地域の人や組織をつなげて受け入れ態勢をつくる、地域外との協力関係をつくる、そして地域に賑わいをつくる、この3つの活動を継続的に実施するために、私は浅虫において中間支援団体を立ち上げて、大学生にも参加していただいています。具体的には「あさむしマルシェ」というイベントを毎月開催し、地域内外の飲食店等に参加いただき、大学生たちが運営を手伝い、浅虫に興味関心を持つ人を増やしています。私のゼミの学生はもちろん、青森県内の他大学の学生も参加するようになり、その関係性は現在でも継続しています。「若者がいない」と嘆く地域は多いと思いますが、大学生が地域に関われば賑わい創出と次世代を担う人財育成にもつながり、地域に希望が持てると思っています。

この活動を応用させて取り組んでいるのが、高校の「総合的な探究の学習」の支援です。青森県内の高校では「あおもり創造学」というテーマで探究を行っており、青森県内の地域課題解決や新規企画開発などに取り組んでいます。最近



浅虫マルシェを支える大学生たち(手前)

□ゼミでの取り組み

持続可能な地域づくりには、地域特性を活かした産業振興が欠かせません。私のゼミでは、学生の出身地など個別に地域を設定し、その地域の活性化や課題解決についてテーマを設定して研究を進めます。その際に必ず外部との連携を条件として、研究成果を連携先へ還元することになっています。

例えば八戸市出身の学生は、八戸市農業経営振興センターとの共同研究として、規格外農作物の有効活用という視点で、八戸産のりんごとトマトを活用して「はちがくスムージー」を開発し販売しました。この地域資源を活用した商品開発を通して、許可申請や資金獲得の難しさ、完売した時の喜びを体験しています。その後も八戸市や関係企業との共同研究を続けており、どうすれば地元地域の生産者が利益を得られるのか検討しています。



学生起業チャレンジコミュニティ活動

さらに活動を継続し拡散していくために、八戸市や八戸商工会議所と連携し「学生起業チャレンジコミュニティ」の取り組みも開始しました。地域づくりは、若者たちの新しい挑戦があつてこそ動き出すと考え、学生の挑戦をただの活動ではなく起業という形に展開できるよう、ゼミ学生たちと他大学生や高校生と一緒に学び合う場を構築しています。先輩起業家からの講義やイベントでのテストマーケティングを通して、アイデアで終わることなくビジネスとして地域で稼げる仕組みをつくるのが持続性につながることを学んでいます。

□安心安全な地域づくり

私の研究テーマの一つは防災教育です。災害の規模が大きければ、救援活動を実施する公助(自治体、消防、警察、自衛隊等)も被災する可能性が高くなります。よって防災の基本は自助(自分の命は自分で守る)と共助(自分たちのま

は自分たちで守る、助け合う)だと考えています。そこで、防災に関する知識を身につけることで自助と共助につなげたいと始めたのが「防災士」の資格取得講座です。2018年から実施し、2024年度まで11回の講座を開催し500名を超える防災士を輩出しています。

持続可能な地域づくりにおいても防災は重要です。例えば観光地は安心安全が前提で成り立っている産業です。仮にその地域が危険だと知られたら、観光客が行かなくなるといふ風評被害を受けることとなります。そうならないために大切なのが「レジリエンス」です。レジリエンスは心理学において精神的に落ち込んで立ち直る力「回復力」とされていて、防災では「縮災(被害を受けてもすぐに復旧できるように努力して、被災期間を短縮する)」という考えになります。

このレジリエンスは地域づくりにも応用できます。グローバル化した現代では、どんな地域も相互依存の網の目の中にあります。日常生活においてはインターネットやスマートフォンなどグローバル企業の製品やサービスを手軽に使えるという便利さがありますが、一方で地球のどこかで何かが起こったら、その影響は伝播し、備えをしていない地域に大きな打撃を与えます。コロナ禍ではその脆さが明らかになりました。目先の効率を優先したために多様性が低下し、何かが起こった時にすぐに立ち直れない状態になっていたのです。

地域のレジリエンスを高めるためには、短期的な利益だけでなく中長期的な視点でバランスの取れた地域づくりが求められます。具体的には、食料やエネルギー、

雇用や経済が地域で循環しているかどうか、効率は少し落ちても地域内生産率や消費率が高まれば、レジリエンスが高まり、自立できる地域となり持続性も高まると言えます。同様に観光地域づくりにおいても、いま注目されているインバウンド対策はもちろん重要ですが、まずは地域の住民が住みたいと思えるまちか、そして近隣の人々が気軽に訪れたいと思える地域になっているかを見直すべきではないかと考えています。

自分たちが住んでいる地域はどのような個性や特色があり、将来どのような地域になっていかビジョンを描き、そこに向かって今から取り組むべきことは何かを考えるよう学生には伝えています。地域づくりは10年20年かかる長期プロジェクトです。目の前のことにとらわれすぎると動けなくなってしまうこともあるため、常に未来を見据えて今後も学生たちと活動を続けていきます。

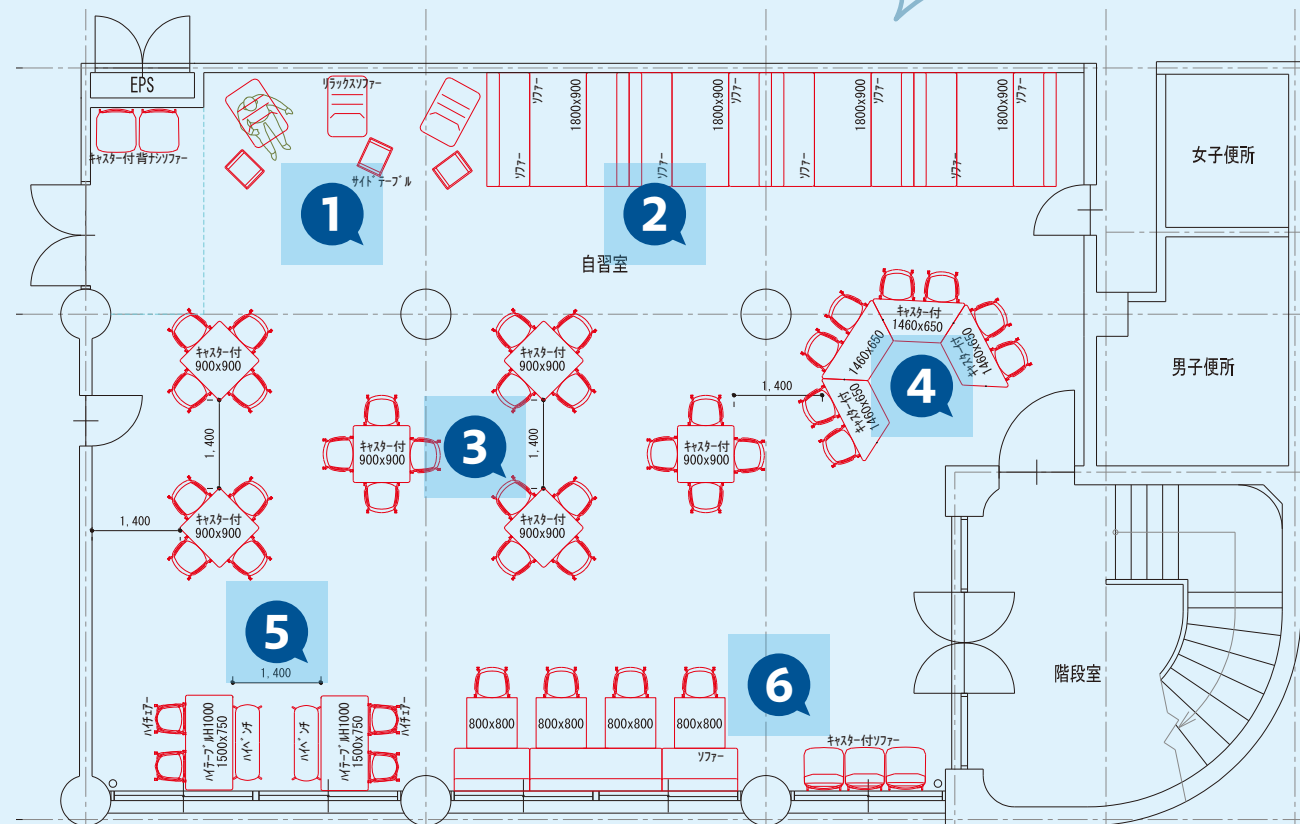


はちがくスムージー販売(はっち)



第1回防災士養成講座記念写真(八戸市立市民病院 今先生と共に)

学生交流ラウンジは、 学生の要望から生まれた学生の交流の場です。



八戸学院大学3号館1階が 「学生交流ラウンジ」に生まれ変わりました！



5 ハイテーブル席 (手前)

立ち座りしやすい高さのあるハイテーブルとハイベンチ。
イスを使わずカウンターとしても使用できます。

6 ロングベンチ席 (奥)

フラットな関係性で話ができるベンチ席。
横に並んで相談したり、向かい合って打ち合わせも…。

3 四角型可動テーブル席

丸みのあるデザインと気分を高めるカラフルなカラーで、会話が弾む楽しい空間を演出。軽量・キャスター付きで、人数やシーンに合わせて自在にレイアウトを組み替えることができます。



4 台形型可動テーブル席

組み替えることで様々な形のテーブルに早変わり。ホワイトボードを組み合わせることでグループミーティングやプレゼンテーションにも使用できます。



2 ファミレス席

ゆったりとしたソファで食事や休憩ができます。また、テーブルも広く、資料やモニターを設置することでミーティングやちょっとした打ち合わせまで用途は様々です。



1 キャンプチェア席

外にいるような心地よいソロスペース。キャンプチェアは角度も変えられ、講義の時間まで気分転換ができます。

短大 八戸小唄流し踊りに参加しました [7/18]



本学幼児保育学科と介護福祉学科の1・2年生と教員、約140名が八戸小唄流し踊りに参加しました。地域貢献活動として平成20年から毎年参加しており、限られた時間の中で踊りの所作を身につけるよう練習に取り組んできました。



当日は、天候にも恵まれ、各々色鮮やかな浴衣に身を包んで列の最後を飾り、練習の成果を披露しました。

また、ストリート七夕飾りには、幼児保育学科1年生が制作した吹き流しが飾られました。

大学 短大 八戸三社大祭 1dayお祭り体験を実施 [8/2]

大学と短期大学部の学生が、およそ300年の歴史と伝統を誇る「八戸三社大祭」に参加し、伝統文化の一端に触れました。

今年度は、学生が八戸三社大祭に参加しやすいように、事前に学事歴を調整したことや、はちのへ山車振興会の協力もあり「八戸三社大祭1dayお祭り体験」が実現しました。当日は、学生19名が揃いのTシャツを着て城下附祭山車組に参加し、中心街を約2時間練り歩きました。

参加した学生は「今まで興味はあったが参加する機会が無かったので、参加出来て良かった。山車が想像以上に重く驚いたが楽しかった。」と笑顔を見せていました。



大学 短大 学友会・学生会主催 「留学生ウエルカムパーティー」開催 [7/11]

八戸学院大学学友会・八戸学院大学短期大学部学生会主催の「留学生ウエルカムパーティー」が開催され、留学生や一般学生、教職員合わせて40名が参加しました。

主催者を代表して学友会執行委員長の金入俊輔さん（地域経営学科3年）の挨拶に続き、小林眞学長が「勉学も大切だが、ぜひ八戸の文化や歴史にも触れてほしい」と歓迎の言葉を述べました。その後、バリー・グロスマン国際交流・留学生支援委員長の乾杯で懇親会がスタート。参加者は始終和やかな雰囲気での懇親を深めました。懇親会後半には、留学生一人一人が自己紹介と抱負を語り、集合写真を撮影して終了しました。



大学 初の全日本大学サッカートーナメント出場へ

「第49回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント東北地区予選」(6/7～6/29)で創部以来初の優勝を果たした本学男子サッカー部は、9月3日(水)から開催される「第49回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」に東北第1代表で出場が決定しました。

大会出場に向けて主将の大坂悠斗さん（人間健康学科3年）は「たくさんの方々に支えられた結果だと思うので感謝の気持ちを持ち、東北代表として一つでも良い成績を残せるよう全力で戦いたいと思います。応援の程宜しくお願いします。」と意気込みを語りました。



大学 むつ下北キャンパス オープンキャンパスを実施 [7/26]

本学健康医療学部看護学科むつ下北キャンパスにおいて、今年度1回目となるオープンキャンパスを実施しました。

オープンキャンパスでは、むつ下北キャンパスの紹介や体験授業を行い、参加者は高齢者疑似体験などを通して大学での講義を体験し、高齢者に対してどのようなケアが必要かを考える機会となりました。体験授業終了後には相談会を実施し、在学学生は学生生活など高校生や保護者の質問に答えました。また、むつ下北キャンパスに通学する学生が利用できる「むつ下北キャンパス修学資金制度」について、むつ総合病院の担当者から説明を頂いたことで理解が深まったようです。



大学 日中オンライン交流会を開催 ～国際的視野を広げよう～ [6/24]

「八戸学院大学&香港中文大学 Be Global 日中オンライン交流会」が行われました。

このプロジェクトは、八戸学院大学と香港中文大学の学生の国際交流意欲の向上および国際的な学修機会の拡充と多様化を進めることを目的としており、本学から30名、香港中文大学から10名の学生が参加しました。

交流会では、本学の学生が日本の文化について理解を深めてもらおうと、日本の文化についてグループ発表を行いました。その後のフリートークではグループに分かれて、日頃から持ち歩いている物や好きな景色などを紹介し、国境を越えた同世代の価値観や考え方を分かち合いました。



野西高 環境美化活動 [6/3]

「花で笑顔の輪を広げよう！プロジェクト」の一環として、野辺地町ロータリークラブよりマリーゴールドなどの花の苗120株をいただき、6名のロータリークラブメンバーの方々と本校の1年生が合同で植栽作業を行いました。色鮮やかな花が植えられたプランターを校舎へと続く沿道や生徒玄関前に設置した他、沿道の草取りや清掃活動も合わせて実施し、環境美化に努めました。

参加した1年生の生徒からは、「来校された方々に色とりどりの花を見ていただき、癒されてほしいです」といった声が出ていました。野辺地町ロータリークラブの皆様、ありがとうございました。



野西高 文化講演会 [6/12]

直木賞作家の澤田瞳子氏を講師としてお招きし、「高校生のための文化講演会」を開催しました。

澤田先生は「読書とは何か」というテーマで講演されました。講演を聞き、読書に対する考え方が大きく変わり、感銘を受けた生徒が多数いました。

今回の講演会では、読書をすることで自分では考えられない世界を知ることができ、自分自身の考えの幅を広げることができるということがわかりました。また、フィクションとノンフィクションの違いについても改めて考える機会となりました。フィクションは虚構のことですが、100パーセントのフィクション（虚構）という作品はありません、フィクションの中にも作者自身の考えが広がっていることがわかりました。私も自分の考えの幅を広げるため、インターネットだけではなく、読書をするを積極的に意識していきたいです。

3年1組 高橋 陽彩



野西高 スポーツ大会 [7/3・4]

今年度も運動委員会の生徒が中心となって、スポーツ大会が開催されました。体育祭と球技大会を組み合わせた様々な競技を設定し、総合優勝や最優秀選手賞を目指して全力で取り組みました。ダンス競技では、体育の授業の成果を存分に発揮しクラス一丸となって踊る姿が印象的でした。

最優秀選手賞には3年1組の佐々木翔奨さん（三沢市立第二中学校出身）が選ばれ、橋場校長より賞状とトロフィーが授与されました。佐々木さんは、「自分が最優秀選手に選ばれるとは思っていなかったので驚きました。今回の受賞を励みに、来週の甲子園予選に向けて頑張ります」と笑顔を見せていました。



光星高 吹奏楽部創部以来初の全国高総文出場 [7/29～30]
東北大会(大編成の部) 出場!! [8/23]

7月29日(火)から30日(水)まで香川県高松市で開催された「第49回全国高等学校総合文化祭かがわ総文祭2025吹奏楽部門」に青森県代表として本校吹奏楽部が出場しました。創部以来初の全国大会でのステージということで大きな緊張はありましたが、吹奏楽部の特徴である「明るく輝かしいサウンド」を会場いっぱいに響かせることができ、来場された方にも楽しんでいただくことができました。

そして、8月23日(土)には福島県郡山市で開催された「第68回東北吹奏楽コンクール」に出場しました。結果は銅賞でしたが大編成での東北大会への出場も創部以来初で、新たな扉を開くことができました。

今年の夏は吹奏楽一色の充実した時間を過ごさせていただきました。今後は、この夏の貴重な経験を活かして更なる技術の向上を目指して活動します。そして、11月2日(日)に、SG GROUPホールはちのへ（八戸市公会堂）で、第20回定期演奏会を開催します。是非、本校吹奏楽部の演奏を聴きにいらしてください。



光星高 過酷な暑さに対処する熱中症勉強会を開催 [7/16]



1年生から3年生の普通科スポーツ科学コースの生徒170名を対象に、生徒自身が熱中症に対する危機管理意識を持ち、命を最優先する実践的な行動ができるよう熱中症勉強会が開催されました。

講師に大塚製薬東北支店青森出張所の中島義文氏を招き、熱中症に対する正しい知識と予防行動を身につけられるよう、活動前に意図的に体温を下げるプレクーリングの有効性や、朝食でしっかりと水分を摂ることを学びました。

また、大塚製薬株式会社が主催した「熱中症対策標語コンテスト」の表彰式も行われ、最優秀賞や学校長賞、大塚製薬株式会社賞などの受賞者とその標語が紹介されるなど、熱中症について考える機会となりました。

光星高 中学生を対象にしたオープンスクールを開催 [8/1・4]

中学生を対象としたオープンスクールが8月1日(金)と4日(月)に開催され、2日間で528名の中学生が参加しました。体験授業では、特別進学コースのInspire Highを用いた総合的な探求の時間や進学コースのオンライン英会話をしながらのフィリピンへのライブツアー、スポーツ科学コースの栄養講座や保育福祉コースの作業療法など、本校の特色ある授業を体験しました。また、チアリーディング部のウェルカムセレモニーや吹奏楽部のウィールビバックコンサートの鑑賞なども行われました。

オープンスクールに参加した中学生から、「お祭りのような雰囲気楽しく、体験した授業もわかりやすかった。」などの感想が寄せられました。



八戸学院聖アンナ幼稚園

幼稚園へ おかえりなさい



背が高くなったから
膝をついて洗濯したよ

8月2日に卒園児(小学1年生から3年生まで)を対象とした催し「おかえり聖アンナ幼稚園へ」を行いました。小学校へ入学し、毎日学校で頑張っている卒園児たちは、幼稚園の頃を思い出しながら、「懐かしい〜!」「これもう一回やりたかったんだ!」と思い思いに好きな遊びに取り組みました。中には、「幼稚園の機織り機で、この模様の織物を作るんだ!」と強い目的意識を持って来園する卒園児もいました。幼稚園時代から培っている“物を大切に丁寧に扱う”“他の人の

邪魔をせず相手を尊重する”といった様子が卒園児のどの子からも感じ取ることができ、入学して更に成長した様子に教職員一同嬉しく思いました。小学校低学年の頃は幼稚園と小学校との違いに戸惑いを感じる子どもも多くいます。卒園児やその保護者の応援隊であり続けたいと思っています。



話を聞く姿勢が小学生らしいね

ステラ・フォーカス



八戸学院3幼稚園
マスコットキャラ
ステラが行く
vol.26

7月26、27日、本園では年長児のお泊まり会が行われました。令和元年以来6年ぶりの開催で、園長も副園長も初めての経験です。中断していたのはもちろんコロナ禍のためで、この間は泊まらないお楽しみ会を行っていました。お家の方と離れての宿泊にはどうしても心配がつきまといまので、お泊まり会の復活にためらいがなかったとは言えません。ただ、この行事にはやはり楽しさだけでなく、年長ならではの「挑戦」の要素があつてほしいという思いがあり、今年の年長さんの様子を見て決断しました。

お夕飯のカレーライスづくり(子どもが野菜を育てました!)、ランタン製作、スイカ割り、八戸線乗車(鯨から本八戸まで)、山車見学・お囃子体験と盛り沢山の半日を過ごした子どもたちは驚くほどの食欲を見せ、カレーもサラダもデザートもおかわり続出でした。その後は花火鑑賞と夜の幼稚園探検。消灯した園舎内をランタンで照らしながら歩くのはかなりの冒険で、トイレに隠れていた副園長の熱演で悲鳴が響き渡りましたが、最後に「お化けなんていない!」ことを確認すると、みんな朝までぐっすりでした。

2日間、疲れや寂しさもあったと思いますが、ぐずったり揉めたりすることなく、仲良く力を合わせて活動している姿には本当に感心しました。クラス混合のグループ編成で、いつもと違うメンバーと一緒に動いたのも新鮮だったと思います。2日目の早朝に葦毛崎展望台でお散歩をした際にも、海を見下ろして歓声をあげながらも、「気をつけて」「危ないよ」と優しく声をかけ合っていた子どもたちでした。

八戸学院幼稚園 『久しぶりのお泊まり会』

そして、今回のお泊まり会のために、3人の強力な助っ人(「パパ親」さんたち)が駆けつけてくれたことにも触れなくてはなりません。飯盒で美味いご飯を炊いたり、花火を上げたり、最大の見せ場だったのは、スイカ割り! 子ども全員でトライした後、3人の連係プレーで大いに盛り上げ、最後に見事に真つ二つにした姿は、子どもの目に焼き付いたことでしょう。

職員にとっても挑戦だった久しぶりのお泊まり会。保護者がお迎えに来たときの子どもの笑顔を見ると、大成功だったと言えるのではないのでしょうか。



カレーライスづくり

八戸学院第二しののめ幼稚園

夕涼み会

終園式があった日の夕方から、PTA主催の夕涼み会がありました。初めてキッチンカーを呼び準備をしている中、子どもたちは浴衣や甚平を着て再び登園しました。1番の楽しみは、夜までお友だちと一緒にいられるということ。子どもたちは終始満面の笑みを見せてくれました。園庭では、お友だちとたくさん走って、食べて、家族や友だちと花火を楽しみました。特にドラ



ゴン花火にはみんな大興奮でした。園内では、うちわ作りとキャンプ体験が行われました。ハンモックに寝てみたり、テントの中でお話をしたりと、お部屋全体が秘密基地のようで、大人もワクワクするような作りになっていました。「今日おばけやしきもある?」など夏のイメージを膨らませ、目を輝かせる子どもたちの表情が印象的で、特別な時間を過ごすことができました。企画・実行してくれた保護者の皆様に感謝いたします。



八戸学院幼稚園

出張!「チッチクラス」



チッチクラスは1歳くらいまでの赤ちゃんが対象の未就園児教室です。ベビービクスや感触遊び、季節の制作などを主に行っていますが、8月は八戸学院大学の佐藤千恵子先生

を講師に、大学の調理実習室で離乳食教室を開きました。参加者は5組でしたが、あれ、人数が多い? 実はお母さん方だけでなく、お父さんや夏休み中のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちの参加もあり、とても賑やかで楽しい教室となりました。

子どもたちは大学生のサポートでおやつ作りをし、油も塩も使わないポテトチップスやミルクゼリーは大人にも好評でした。保護者は講師を囲み、簡単・ヘルシーでおいしい離乳食を作りながら、食にまつわる相談ごとで話が弾んだ様子です。情報はネット上にあふれる現在ですが、顔を合わせて一緒に手を動かすのはやはり良いものだと実感されるひとときでした。



夜の探検



山車見学とお囃子体験



八戸線に乗車

イオンモール下田30周年記念合同学園祭 学×食 SCHOOL FESで「八戸学院」をアピール!!

令和7年7月6日(日)、イオンモール下田開業30周年を記念した「合同学園祭」がイオンモール下田北駐車場で行われ、最高気温が33度を超える真夏日でしたが、青森県南地域の高校・大学・専門学校等に加え、数十台のキッチンカーや飲食店のテントが並んだ会場には、暑さに負けず数千人の入場者がありました。

本学院では系列の学校を広くアピールする機会にしようと、大学と短期大学部、光星高校、野辺地西高校が参加し、系列幼稚園(八戸学院幼稚園・聖アンナ幼稚園・第二しのめ幼稚園)は、園児たちの元気な姿をまとめたスライドショーを上映して紹介をしました。

大学と短期大学部のブースでは、地域経営学科の留学生を中心としたグループによる「中国結び体験と漢服展示・試着」、人間健康学科による身体組成測定と貧血測定の「健康チェック」、看護学科は「学科パネル展示&宣誓式・演習の紹介」、幼児保育学科は、幼児期の言葉の発達等を学んだ学生による「絵本の読み聞かせ」、そして介護福祉学科のステージパフォーマンス「KAIGOきらめき隊★けっぱレンジャー登場!!あたまとからだのトレーニングで認知症をやっつけろ!!」では、認知症の理解を深めるクイズ等を行いました。

また、光星高校と野辺地西高校のブースでは、学校紹介やチラシ・記念品の配布、オリジナルどら焼きの販売等、各校特色のある展示等を行いました。

本学院の教職員や学生・高校生等、100名以上のスタッフが準備・運営を行い、イベントを盛り上げ、たくさんの方々に「八戸学院」をアピールすることができました。



KAIGOきらめき隊★けっぱレンジャー登場



子どもたちに絵本や紙芝居の読み聞かせを実施



大学生も教員と一緒に来場者の健康チェック



高校展示ブース(左)と大学展示ブース(右)



アシスタントMCの中城里奈さん
(人間健康学科3年)



高校生自ら学校紹介パンフレットを配布



漢服を試着して記念撮影する高校生



看護学科の魅力と強み、学生の声をパネルで紹介

第六回 八戸学院大学「鳴弦館」弓道大会を開催

令和7年八月十日(日)、八戸学院大学「鳴弦館」弓道場を会場に、八戸学院大学「鳴弦館」弓道大会が開催されました。この大会は、平成二十九年に弓道場が新築されたことを記念して第一回大会が開催され、今年で六回目となりました。(新型コロナウイルス感染症の影響で三年間中止)

大会には、名誉大会長の法官新一理事長、大会長の小林眞学長も出席し、開会式では小林大会長が、激励の言葉を述べました。

県内外の高校生・一般約二百名の参加者を迎えて熱戦が繰り広げられ、二戸大弓会が高校生との決定戦を制して総合優勝を果たしました。

高校女子の部では、八戸学院光星高校二年の藤原礼羅選手が、六射五中という優秀な成績で個人の部の優勝と射道優秀賞を獲得しました。大会後、藤原選手は「今回の大会では高校女子個人の部優勝と射道優秀賞をいただき、とてもうれしいです。顧問やコーチ、お世話になった皆さんに恩返しできるように、これからも稽古に励みます。」と話していました。昨年、総合優勝だった八戸学院大

学は優勝を僅差で逃し、二位と三位でした。部員は、「来年度は総合優勝杯を奪還できるよう、さらに稽古を積み重ねていきたい。」と悔しさをにじませていました。

また、金的(直径9センチ的)は三沢高校の女子選手が見事に射抜き、観客は大盛り上がりでした。来年も、八月の下旬に開催を予定しています。

今回の大会に合わせて、「株式会社GANBAX・BS様」から「安土幕」を寄贈していただきました。心よりお礼申し上げます。

成績(団体的中省略)

〈総合優勝〉二戸大弓会

〈高校男子の部〉

- ① 八戸工業高校B
- ② 八戸工業高校A
- ③ 八戸西高校A

〈高校女子の部〉

- ① 盛岡商業高校B
- ② 八戸商業高校A
- ③ 北桜高校C

〈一般の部〉

- ① 二戸大弓会
- ② 八戸学院大学C
- ③ 八戸学院大学A



開会式の様子(小林眞学長の挨拶)



安土幕(株式会社GANBAX・BS様寄贈)



弓道大会の様子(光星高校Bチーム)



もは、その後に過剰なエネルギーや栄養素を与えられると、肥満・高血圧・糖尿病などの生活習慣病だけでなく、発達障害や統合失調症の罹患頻度も高くなるという考え)の説明では、妊娠前に低体重(やせ)であることのリスクも伝えています。しかし、目標とするBMIの範囲を下回る18・5(kg/m²)以下の学生も多くいます。自分の健康と将来の命の健康の両方を考えて、今から「健康と体力」を意識した生活を心がけてほしいものです。

ところで、合計特殊出生率は、昨年度過去最低を更新し、1・15となり、9年連続の低下となりました。出生数はおよそ68万人、夫婦「4組に1組」が不妊治療の経験あり、赤ちゃん10人に1人は生殖補助医療で誕生。治療には通院や心身の負担など見えにくい苦勞も多い」という報告もあり、複合的な原因もあるとのこと。保育現場でも少子化の影響は深刻です。八戸学院第二しのめ幼稚園も開園以来、最も園児数が少なくなりました。

さて、話は変わりますが、人生の幸せを構成する要素は、一般的には4つのL(人間関係(Love)、「自己実現(仕事・Labor)」、「リフレッシュ(余暇・Leisure)」、「成長(学習・Learning)」だといわれています。人生は複数の要素で成り立っているということ。では、幸せとは？「幸せは自分の心がきめる」です。幸せは心で感じるものだからです。自分が満たされたとき、幸せを実感します。いつでもどこでも。



「今　ここ」でわたしが思うこと

八戸学院大学短期大学部 学長補佐
八戸学院第二しのめ幼稚園 園長

加藤 康子

美保野キャンパスの並木道は、いつも爽やかに私を迎えてくれます。晴れの日も、くもり空でも心地よい空気とともにそこに佇んでいます。美保野の四季は、とても美しいと感じています。春の桜、夏の緑、秋の紅葉、冬の雪：美保野に通う学生や職員、来訪者は、このすてきな景色に心を動かされているかしら。

オープンキャンパスが今年度も開催され、美保野キャンパスを訪れる高校生と保護者の数も多くなってきました。目指す学部・学科の体験授業や施設見学の折に、この自然豊かな澄んだ空気を感じて、受験や入学に意欲が湧いてくるといういなと思っところ。です。

毎日を通ぐす環境が良ければ、心も身体も健康にするということ。私たちが知っているのですが、自分が心地よく過ごせる環境を自分仕様に整えることができているかと考えると、そうでもないと思うことも。あるいはないかと思。います。大学生活の4年間、短期大学部での2年間は、自分がこれから社会に出ていくまでのとても貴重な時間。社会人としてのスタートラインに立つ前のトレーニングやウォーミングアップをしている時間に相当します。卒業するときに、負けずとも劣らない力をつけて巣立ってほしいと願うばかりです。大学とは、そこに学ぶ学生が知性を磨き、生きる目標を模索するところだから、自分を美しく鍛えて、自分だけが咲かすことができる花を一番美しく咲かせようという努力と決

学生が落ち着いて学生生活を送れることに喜びを感じるこの頃ですが、一人ひとりの心の中に幸せはあるだろうかと思うことがあります。特別なことがなくても、些細なことでも幸せを感じているだろうか。日々の生活の中で難しいことに取り組むことは、当然、時間も手間もかかります。でも難しいことをするからやり遂げたときに達成感が得られるのです。学生には、在籍中にこの「達成感」や「幸せ」をたくさん味わってほしいと思っています。じっくりと取り組める「学生である時間」に、できることを楽しみ、スキルを身につけてほしいと思うのです。学び続け、社会人になってもスキルを磨き続けることを期待しつつ、学生一人ひとりが自分の活躍の場を広げ、自分自身を成長させていく未来に、多くの人の役に立ってほしいと願っています。

役に立つ人と思われるところや、自分の力を発揮できるところにいたいという気持ちがあっても、そのときに置かれた場所が自分の居場所であることを受け止めることが容易なことではないこともあります。本意ではなく環境が変わることもあります。そんなときにはBloom where God has planted you. (神が植えたところで咲きなさい。)ということばを思い出し、置かれたところで自分らしく生きていけば、必ず「見守っていてくださる方がいる」と思うこと。「自分の置かれた状況でできる限りのことを精一杯しなさい。周りの環境のせいにはせず、あたえられた場所で自分の力

意を持つて過ごしてほしいものです。そして、毎日出会う人に感謝し、その気持ちを挨拶で伝える習慣も身につけたらと思うのです。挨拶は、大切な心を伝える最良の手段だから。爽やかな挨拶は、心も軽やかにさせてくれるから。

さて、やりたいことを見つけたとして、それを続けるために必要なものがあるとしたら、それは何だと思。いますか。知識やスキルは経験しながら育むことができるし、財力も何とかなるものだと考えると、なくてはならないものは「健康と体力」です。やりたいことを継続するためには時間もかかるため、取り組むには体力が必要。そのため、学生のうちから身体を鍛えて健康と体力を保持していくことは大切なことだと思。うのです。

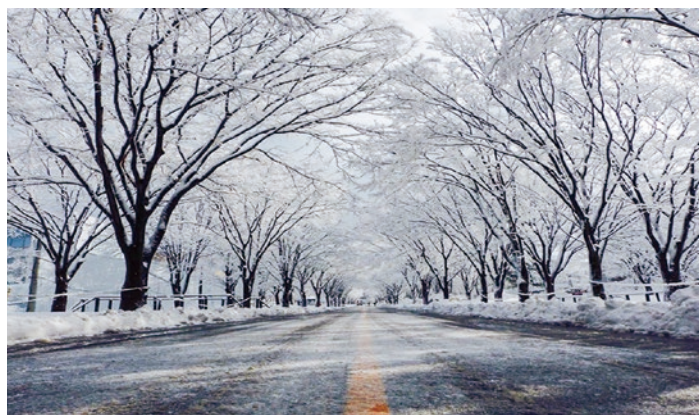
それにしても、学生の生活リズムや食事・睡眠の確保は十分か、気になることです。2年生の講義で『食事バランスガイド』を使って自身の食事を振り返ってもらっていますが、「食べていない」「バランスがとれていない」学生が多いことに気付かれます。そんな学生が講義でそのことを発見し、自分の食事と向き合うようになるのですが、改善していくことは実際にはなかなか難しいようです。さらに、学生に「妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針」妊娠前から、健康なからだづくりを」で、妊娠前からの食生活の重要性を伝えていきます。また、DOH(産)説(胎児期から乳幼児期に低栄養環境に置かれた子ど

を発揮し、自分らしく輝くことを目指せ。」と思。うこと。置かれた場所で最善を尽くすことで、自分自身を成長させ、周りの人も幸せにすることができ。るのだから。そして、「咲けない日は、下へ下へと根を伸ばせ、やがて大きな花が咲く」のだから。

そしてまた、「神よ 変えることができるものについて、それを変え。るだけの勇気をわれらに与えたまえ。変えることができるものについて、それを受けい。れるだけの冷静さを与えたまえ。そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ。」(ラインホルド・ニーバー(アメリカの神学者)の「ニーバーの祈り」より。大木英夫訳)と、静かに受け止めることも大切だと思。います。

美保野の地で、過ぐす時間を少しずつ重ねてきて思。うことは、学生との出会いがよい出会いであるため、毎日輝いていたいということ。そして、今日一日を生かしていただく感謝の念と謙虚さを持ち、精神的にも成熟し、まだまだ自分自身を成長させてい。きたいと思。います。

暑い日が続。いていますが、この夏も学生たちに実。り多い季節(とき)となりますように。



冬の雪



秋の紅葉



夏の緑



春の桜



湊高台キャンパス 幼稚園の小さな先生「カメさん」



八戸学院幼稚園には10年以上前に保護者から譲り受けた、大きなミドリガメがいます。

最初はオレンジぐらいの大きさでしたが、今では大玉キャベツほどの大きさに成長しました。

子どもたちも登園時や園内散歩の時など、「おーい」「カメさんこんにちは！」と嬉しそうに声を掛けています。えさを食べる姿や子どもたちの顔を見上げる仕草は、どこかユーモラスで愛らしく、泣きべそをかけた子もいつのまにか笑顔に。

子どもたちの心を癒す小さな先生のような存在です。

湊高台キャンパス

